

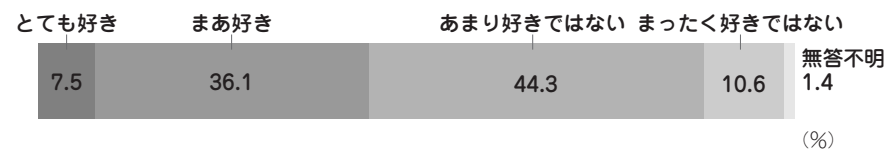
1. 保護者の英語とのかかわり

保護者自身の英語とのかかわりをたずねたところ、英語が「好き」と回答した保護者は4割程度、英語を使うことに「自信がある」と回答したのは約1割だった。また、自分が受けてきた学校の英語教育が「役に立った」という回答は2割弱、今までに英語で苦労したことが「あった」という回答は6割弱だった。

Q あなたご自身のことについてうかがいます。

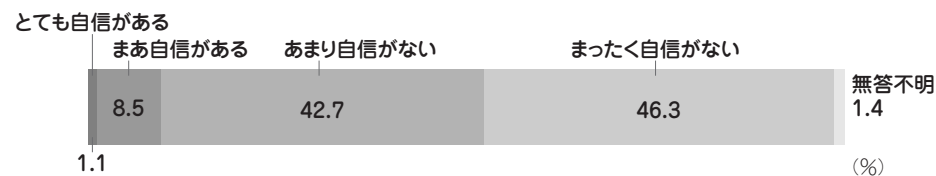
①あなたは、英語が好きですか。

図5-1-1 保護者の英語とのかかわり① (n=4,718)



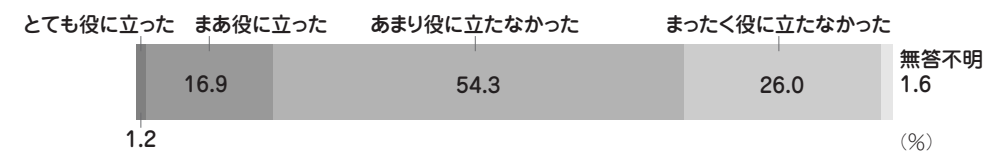
②あなたは、英語を使うことに自信がありますか。

図5-1-2 保護者の英語とのかかわり② (n=4,718)



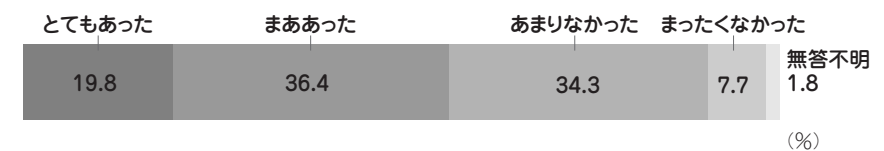
③あなたが受けてきた学校の英語教育は役に立ったと思いますか。

図5-1-3 保護者の英語とのかかわり③ (n=4,718)



④あなたは、今まで英語で苦労したことがありますか。

図5-1-4 保護者の英語とのかかわり④ (n=4,718)

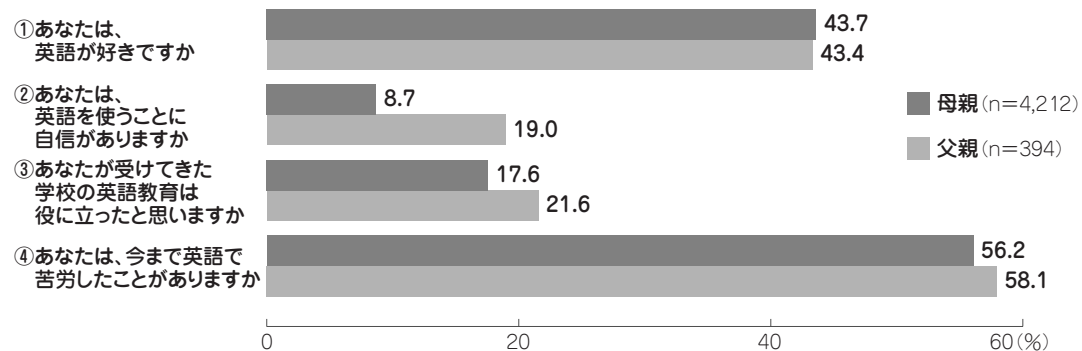


一般の公立小学校で本格的に英語教育(活動)を行うことが可能になったのは、2002年から実施された学習指導要領になり、「総合的な学習の時間」等を利用し、国際理解に関する学習の一環として取り組めるようになってからである。そのため、一部の私立小学校や公立の研究開発学校に通っていたという場合を除けば、ほとんどの保護者は、小学校で英語教育を受けた経験はもっていない。もちろん、個別には、小学生の時に学校外で英語学習を行っていた場合もあるだろうが、公教育では中学校になってはじめて英語に接している場合が大半だと考えられる。

では、こうした教育環境を経てきた現在の小学生の保護者は、自分自身と英語とのかかわりについて、どのようにとらえているのだろうか。そこで、英語が好きか、英語を使うことに自信があるか、自分が受けてきた学校の英語教育は役に立ったと思うか、英語で苦労したことがあるか、の4点に絞ってたずねた。

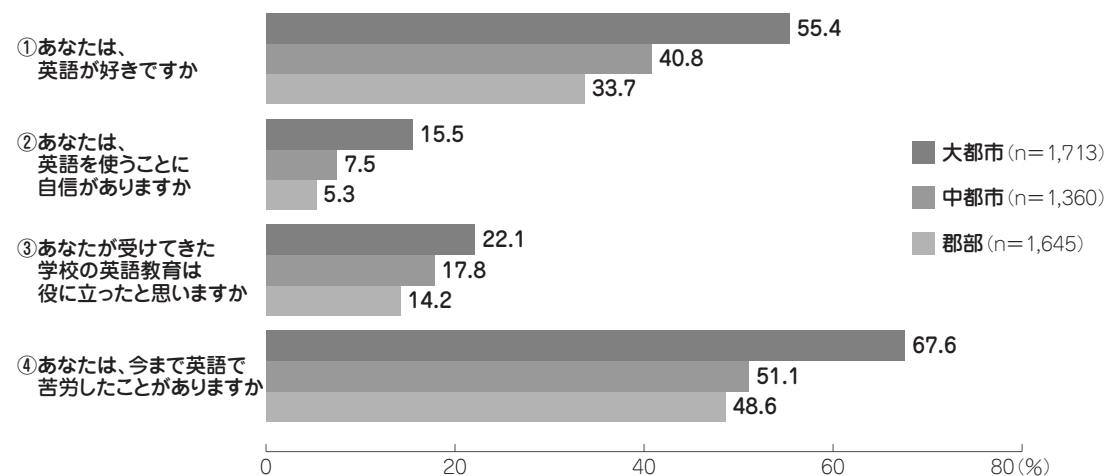
はじめに、「①あなたは、英語が好きですか」について、「好き(とても+まあ)」と回答したのは43.6%であった(図5-1-1)。一方、「②あなたは、英語を使うことに自信がありますか」に、「自信がある(とても+まあ)」と回答したのはわずか9.6%であった(図5-1-2)。自己評価であるため、必ずしも英語力そのものを示すものではないが、約9割の保護者が自分の英語力には自信がないことがわかる。「③あなたが受けてきた学校の英語教育は役に立ったと思いますか」については、「役に立った(とても+まあ)」という回答は18.1%と、2割に満たない(図5-1-3)。逆にいえば、8割の保護者は自分が受けてきた学校の英語教育が役に立たなかったと感じている。最後に、「④あなたは、今まで英語で苦労したことがありますか」について「あった(とても+まあ)」と回答した割合をみると56.2%となっており、「なかった(あまり+まったく)」の42.0%よりも多かった(図5-1-4)。このように、英語が好きかどうかや、苦労した経験があるかどうかについては、完全な二分とはいえないまでも、どちらの層の保護者とも存在している。しかし、英語に対する自信があるかどうかや、学校の英語教育が役に立ったと思っているかどうかについては、かなりの偏りがみられることがわかった。

図5-1-5 保護者の英語とのかかわり(子どもとの続柄別)



*①:「とても好き」+「まあ好き」の%。
 *②:「とても自信がある」+「まあ自信がある」の%。
 *③:「とても役に立った」+「まあ役に立った」の%。
 *④:「とてもあった」+「まああった」の%。

図5-1-6 保護者の英語とのかかわり(地域別)

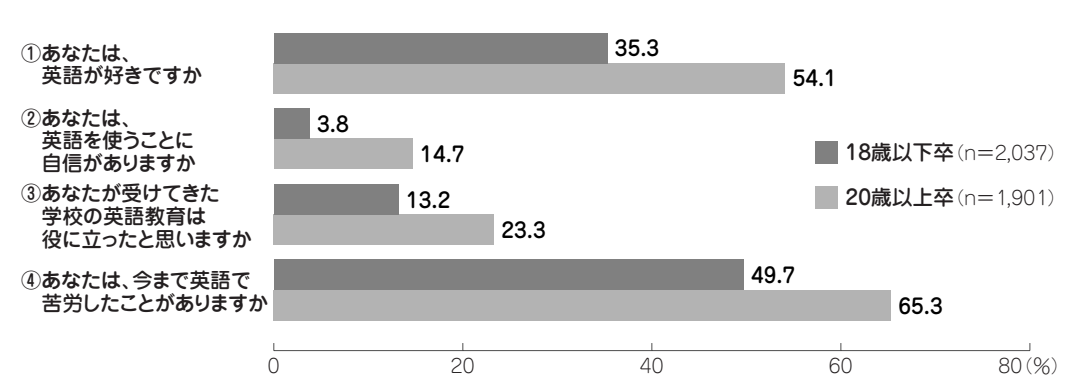


*①:「とても好き」+「まあ好き」の%。
 *②:「とても自信がある」+「まあ自信がある」の%。
 *③:「とても役に立った」+「まあ役に立った」の%。
 *④:「とてもあった」+「まああった」の%。

では、母親か父親かでこうした英語とのかかわりは異なるのだろうか。子どもとの続柄別に英語とのかかわりをみた(図5-1-5)。全般的な結果としては、あまり大きな差はみられないが、「②あなたは、英語を使うことに自信がありますか」に「自信がある(とても+まあ)」と回答した割合については、母親だと8.7%なのに対し、父親だと19.0%と差がみられた。

次に、地域別と母親の学歴別に、保護者の英語とのかかわりをみてみよう。はじめに地域別に特に差がみられた項目をあげると(図5-1-6)、「①あなたは、英語が好きですか」については、「好き(とても+まあ)」との回答が大都市の保護者に多く、大都市55.4%>中都市

図5-1-7 保護者の英語とのかかわり(母親の学歴別)



*①:「とても好き」+「まあ好き」の%。
 *②:「とても自信がある」+「まあ自信がある」の%。
 *③:「とても役に立った」+「まあ役に立った」の%。
 *④:「とてもあった」+「まああった」の%。
 *「母親の学歴別」は、母親の回答のみ分析。「あなたが最後に学校を卒業したのは、だいたい何歳のときでしたか」の設問に、「15歳」「18歳」と回答した場合は「18歳以下卒」、「20歳」「22歳」「24歳以上」と回答した場合は「20歳以上卒」とした。

40.8%>郡部33.7%となっていた。また、「④あなたは、今まで英語で苦労したことがありますか」に「あった(とても+まあ)」と回答した割合は、大都市では67.6%なのに対し、中都市は51.1%、郡部は48.6%と、大都市で高いことがわかる。大都市の保護者の方が、何らかのかたちで英語に接する機会が多い、といった理由が背景にあるものと考えられる。

最後に、母親の学歴別にもみてみよう(図5-1-7)。これによると、いずれの項目についても、「18歳以下卒」より「20歳以上卒」の母親の方が、肯定の回答をしている割合が10ポイント以上高い。たとえば、「①あなたは、英語が好きですか」で「好き」と回答しているのは、「18歳以下卒」より「20歳以上卒」の母親の方が18.8ポイント多く54.1%であった。また、「④あなたは、今まで英語で苦労したことがありますか」に「あった」と回答しているのも、「20歳以上卒」の方が15.6ポイント多く65.3%であった。